

落花生の生産振興に向けて

～落花生新品種「おおまさりネオ」の導入・普及の推進～

1 活動のねらい

千葉県が育成した落花生新品種「おおまさりネオ」の導入・普及を目的に、千葉市内に従来品種と新品種の比較展示ほを設置しました。

展示ほにおいて、千葉地域管内の農業者及び関係機関を対象に現地検討会を開催し、新品種「おおまさりネオ」の導入・普及の推進を目指しました。

2 課題の背景

農林水産統計によると、落花生の令和元年産作付面積は全国で 6,330ha、その内 8 割の 5,060ha が千葉県で作付けされており、千葉県の特産品となっています。当管内においても、露地野菜経営の重要な輪作作物となっており、落花生販売業者への出荷の他、直売や収穫イベントでの活用など多様な販売が行われています。

「おおまさりネオ」は、令和 3 年から一般栽培が始まります。「おおまさり」の栽培上の欠点を克服した品種で、各方面から注目されています。「おおまさりネオ」の草型は、全体的に立性で分枝が短くコンパクトです。そのため「おおまさり」のように株間を広くする必要がなく、収穫作業がしやすくなっています。また、未成熟莢が少なく、株元に莢が集中するため、調製作業の省力化が可能です。

「おおまさりネオ」の円滑な導入・普及を図るために、一般栽培開始前に農業者及び関係機関に対し、品種特性や栽培のポイントについて周知を行う必要がありました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 展示ほの設置

新品種「おおまさりネオ」の品種特性の把握・周知を目的に、県の事業を活用して、千葉市内に展示ほを 2 か所設置し、従来品種「おおまさり」と「おおまさりネオ」の品種比較を行いました。このうち 1 か所は、千葉市農政センター内のほ場とし、市と連携して設置及び調査を行いました。また、千葉市その他、千葉県農林総合研究センター落花生研究室（以下、落花生研究室）と合同ほ場巡回を行い、生育・管理状況の確認と意見交換の他、他地域の生育状況について情報共有しました。

(2) 現地検討会の開催

展示ほを活用して、令和2年9月に千葉地域管内の農業者及び関係機関を対象に現地検討会を開催しました。開催を広く周知するため、関係機関等の協力を得て、チラシの配布や直売所での掲示を行った結果、農業者22名、関係機関22名の参加がありました。

検討会では、「『おおまさりネオ』に触れる機会を！」をテーマに、品種特性や栽培方法、ゆで豆用の調製方法、販売時の表示方法等の情報提供の他、新品種の優れている点を分かりやすく伝えるため、現地ほ場で「おおまさり」と「おおまさりネオ」の掘り比べを行いました。

参加者は「新品種は枝をたぐり寄せる必要がなく、腰の負担が少ない。」「新品種の莢は株元に集中しているため、脱莢作業がしやすく、作業時間短縮の効果が見込める。」等、掘り比べの機会を設けたことで、作業性の良さを実感していました。

検討会の内容については、何をねらいとし、どの時期に・どこで・どのように伝えるか、千葉市・落花生研究室と検討を重ねました。意見を出し合い、関係機関が協力することで検討会の内容を充実させることができました。



写真1 品種特性及び栽培方法についての講義



写真2 掘り取った株を囲んで意見交換

4 今後の課題

現地検討会では、参加者にアンケートを実施し、農業者が抱えている栽培上の課題や今後の落花生の生産意向を把握しました。今後、得られた情報を関係機関と共有し、連携して課題解決を図ることで、落花生の生産振興を目指します。

5 担当者 千葉・習志野グループ 黒住 和美

6 協力機関 千葉市、千葉県農林総合研究センター